

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-23

学校名・団体名	西郷村立川谷小学校
HPアドレス	http://www.kawatani-e.fks.ed.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	阿武隈川がつなぐ友情 荒浜小との交流・体験活動
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <ol style="list-style-type: none">1 荒浜小学校児童との交流活動を通して、相手を思いやる心情を高める。2 集団での宿泊活動を通して、集団行動のきまりを守り、主体的に協力しながら活動する態度を身につけさせる。3 海岸沿いの地域の見学を通して見聞を広めるとともに、自分たちの住む地域のよさを見つめ直し、郷土を愛する心情を高める。	

1 交流活動の実施日と場所

平成28年9月20日（火） 出合いの式 (荒浜小学校)

津波による被害地見学 (荒浜町内)

海釣り体験 (阿武隈川河口付近の海)

荒浜語り部の会による津波に関する講話 (宿舎)

平成28年9月21日（水） 防災学習発表会

荒浜地域郷土料理づくり

交流レク 別れの式 (荒浜小学校)

2 交流活動の様子

「荒浜小学校訪問」による交流活動は、1泊2日で実施し、充実した活動にすることができた。あいにくの天候のため漁船乗船体験はできなかったが、恒例のはらこ飯作りはもちろんのこと、漁港の埠頭で海釣り体験など普段経験できない海沿いの地域ならではの体験活動に生き生きと取り組んでいる子どもたちの姿が大変印象的だった。また、バスで移動しながら、津波の被害を見学したり、「互理町語り部の会」の会長さんから津波が押し寄せた時のお話を伺ったりして、あらためて津波の恐ろしさと備えの大切さを学ぶことができた。

防災教育では、新聞紙を活用した防災グッズ作り、放射線に関わるクイズ、放射線の測定方法の発表の3つのグループに分かれてワークショップを行い、発表を通して交流することができた。さらに、全校児童29名で行った集団宿泊学習は、異学年活動を重視する本校の教育活動によって大変有意義な学習の場となった。

荒浜小での交流1日目
海釣り体験



普段できない漁港の埠頭で海釣りをした。初めて経験した子どもが多く、釣り上げると誇らしげな笑顔のをぞかせていた。

荒浜小での交流1日目
語り部の方による津波体験談



互理町語り部の会の方に津波の体験談についてお話していただき、津波の恐ろしさを実感し、災害に備える大切さを学んだ。

荒浜小での交流2日目
防災学習



3つのコーナーに分かれワークショップ形式で発表した。荒浜小の子どもたちがコーナーをそれぞれ回りながら交流した。

荒浜小での交流2日目
郷土料理作り



自分たちが作った「はらこ飯」のおいしさに大満足。海沿いならではの活動に生き生きとした姿で取り組んだ。

3 交流活動の感想

〈児童〉

- ・ 海で魚をつったことやはらこめしをつくったことが思い出にのこっています。
- ・ みんなでお風呂に入ったり、とまったりしたことが、とてもいい勉強になりました。
- ・ 荒浜小の子たちと「はらこ飯」を作れたことが楽しかったし、「はらこ飯」がとってもおいしかった。
- ・ 6月の交流で仲良くなった友達と会えてうれしかった。ホテルでは下級生のお世話をしっかりできた。とても楽しかった。
- ・ 防災学習で色々なことを学習できてよかった。

〈教員〉

津波の被害について語り部の方にバスで回りながら話を聞いたり、パワーポイントを使って詳しく教えていただいたりできるのは、他の体験ではなかなかできないことなので、子どもたち、教師にとって素晴らしいことだった。相手の思いやりを感じる素晴らしい気持ちで2日間を過ごし、県をまたいだ素晴らしい仲間を作ることができた。

同じ阿武隈川に関わる地域の小学校で交流し、それぞれの県や地域の特色を身をもって学べることは、子どもたちにとって貴重な体験だったと思う。地域の多くの違いが子どもたちの視野を広げることができたと感じた。

〈保護者〉

阿武隈川の最上流の学校と最下流の学校が交流するこの事業が大変意義深いものがあると思う。平たく言えば、山の学校と海の学校との交流ということになるが、山育ちの我が子が海の荒浜小を訪れて釣りをしたり、はらこ飯作りを体験したりと、この地に住んでいてはできないことを経験することができた。また、荒浜小の子どもたちも当地を訪れた際、森の中を歩いたり、沢登りをしたりと、初めての体験をたくさんできたと思う。こうした交流と体験を通して視野の広い人間に育ってくれるのではないかと期待している。

4 交流活動の成果

- ・ 阿武隈川源流近くに位置する本校の児童が、阿武隈川河口に位置する荒浜小学校を訪問することを通して、生活環境が異なる地域に住む児童相互の交流を深めることができた。
- ・ 荒浜小学校やその周辺での体験活動を通して、地形・産業・食文化等の多様な視点から海沿いの地域の特色を捉えさせることができた。また、自分たちの住む地域との違いや、それぞれの地域の良さについて感じ取らせることができた。
- ・ 東日本大震災により、原発事故の影響を受けた本校の児童と、津波の被害を受けた荒浜小学校の児童が、当時の状況やその後の生活、現在の防災への備えなどについて交流することを通して、防災に対する意識を相互に高めることができた。